

犀川水系河川整備計画に対する県民意見募集結果

回答人数：2 人

回答件数：2 件

受付期間：令和 8 年 2 月 25 日（水）～3 月 24 日（火）

番号	住所	意見の内容（要旨）	意見に対する県の考え方
1	白山市	白山市坂尻町の高橋川に架かる鬘掛橋付近では、既設の落差工が古いためか、降雨後の増水時に落水音が非常に大きく、周辺住宅で騒音や振動を感じる状況が生じている。 落差工の構造に起因する騒音・振動について、低減対策や改修工事を検討してほしい。	白山市坂尻町の鬘掛橋周辺につきましては、今回の犀川水系河川整備計画の変更により、新たに追加する高橋川の改修区間（曾谷大谷川合流点～竹の谷川合流点）に含まれます。 今後の改修にあたっては、河川環境への配慮の観点からも緩傾斜落差工を取り入れる等、魚類の移動性や景観、水理的影響を踏まえつつ、落水音や振動の低減が期待できる構造について検討してまいります。
2		大雨の際には河道の水位が道路に溢れそうな状況となり、洪水への不安が大きい。過去には周辺地区まで浸水したとの話も聞いており、河床の掘り下げ等、流下能力向上に資する対策を検討してほしい。	大雨時における河川の氾濫へのご不安については、地域の安全・安心を確保する観点から重要な指摘であると考えております。 今回の河川整備計画変更に基づく高橋川の改修は、計画規模を概ね 10 年に 1 回程度発生する洪水とし、河川の拡幅や河床の掘り下げなどにより、流下能力の向上を図ることを目的としています。 これにより、大雨時における河川の氾濫などの浸水リスク低減につながるものと考えております。

			今後、具体的な整備内容について検討を進める際には、地域の状況や地域住民の皆様のご意見を踏まえながら、治水機能の強化および河川環境の保全に努めてまいります。
3	金沢市	辰巳ダムより下流の河床において、土砂の堆積が続いており、アユの餌となる藻類の生育やゴリといった産卵環境としての質の低下が懸念される。 ダムからの放水等による物理的な水量の変化も原因の一つと考えられるが、釣り人や川遊びなどを通じた人為的な攪乱影響も近年は減り、初夏になると堤外敷内の高茎草本が密に生育し、川への立ち入りが難しく、子供達の遊び場としての利用も難しい状況にある。 また、こうした状態は堤外敷内の日常的な市民の監視が行き届かなくなるため、近年都市部に出没するクマの行き来を黙認する結果になっているなど複合的な影響が生じている。 この点から、計画に明記された樹木や堆積土砂の管理と同等に、除草管理も明記頂くとともに、哺乳類や鳥類等の動物の繁殖状況などを考慮し、シフティングモザイク理論等、最新の知見に基づき、具体的な維持管理計画を立案し、川と人の関係性構築の一助としてもらいたい。 この点は、本整備計画が制定から約 20 年を経過し、犀川上流域における農村人口の変化、山林の管理状態など、	犀川本川における河床への土砂堆積、藻類の生育環境や魚類の産卵環境、堤外地の植生状況、さらには人の利用や安全、野生動物の出没との関係については、河川環境の保全と地域との関わりを考える上で重要な視点であると考えております。 また、犀川水系の流域における人口動態や土地利用形態の変化、山林の管理状況、子供達の遊び場となるような河川空間の利用については、河川環境の維持・向上や安全確保の観点から重要な課題であると認識しております。 今回の犀川水系河川整備計画の変更は、主として支川の高橋川における新たな改修区間の追加を目的とするものであり、犀川本川全体の維持管理手法や植生管理方針を見直すものではありませんが、堤外地における除草については、河川管理上の必要性に応じて実施を検討してまいります。 なお、河川整備計画本文においては、今回の変更に際し、第 3 章第 3 節第 2 項において、「河川巡視により樹木等の繁茂状況及び土砂の堆積状況を把握し、必要に応じ

		計画時点から変化する実状を踏まえ、犀川流域のポテンシャルについて再評価し、次期整備計画に繋がる整備計画の変更となることを希望する。	て周辺河川環境を考慮しながら伐採・除草及び土砂撤去等の維持管理に努める。」と明記しております。 いただいたご意見につきましては、河川整備計画を策定する上での貴重なご意見として受け止め、今回の河川整備計画の変更が次期整備計画へつながるよう努めてまいります。
4		辰巳ダム上流部右岸部に大規模な裸地があるが、こうした裸地の存在は犀川の濁りや水色にも影響することが考えられる。こうした流域内にある裸地は、降った雨の多くが伏流せず、地表水としてそのまま川に流入するため、犀川源流生物群集保護林の指定地より下流部では、流域治水の観点から、長期的な治山管理として、樹林帯の回復に努めるとともに、必要に応じて森林環境税など、県民や市民から徴収する税金やマンパワーを活用しながら、都市部への流量管理について、ステークホルダーを巻き込んだ整備計画とすべきものとする。	辰巳ダム上流部における裸地の存在が、水質や濁水、流出特性に影響を及ぼす可能性がある点や、森林管理を含めた流域全体での治水対策の重要性については、流域治水の観点から、中長期的に対応すべき課題であると認識しております。 前述の通り、今回の犀川水系河川整備計画の変更は、主として支川の高橋川における新たな改修区間の追加を目的とするものですが、今回の変更に際し、河川整備計画本文の第 3 章第 1 節において、「流域治水への取り組み」についての記載を新たに盛り込んでおります。 犀川水系では、令和 3 年 6 月に「県央地区流域治水協議会」を設置し、同年 8 月に「犀川水系流域治水プロジェクト」をとりまとめております。この協議会には農林部局も構成員として参画しており、流域全体での治水や水環境の保全については、河川管理者のみならず、関係機関や地域住民の皆様との連携が不可欠であると考えています。

			いただいたご意見につきましては、今後の流域治水の取り組みを進める上での貴重なご意見として受け止め、関係施策の検討等に活かしてまいります。
--	--	--	--